

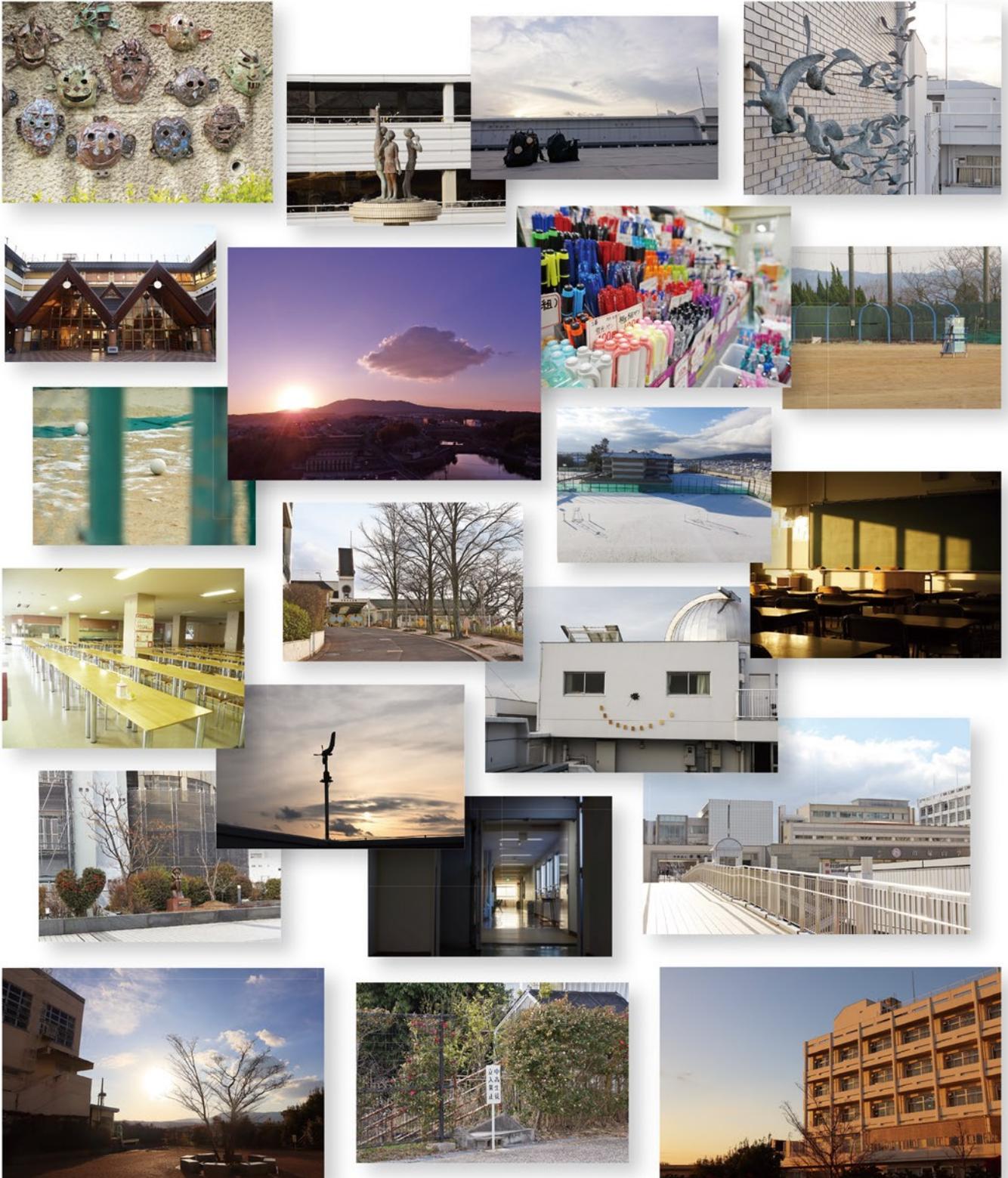


# T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **14**  
2023/Mar.  
令和5年3月6日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



こんにちは。私は昨年4月から理事長を仰せつかり、学園長を兼務しております富岡でございます。よろしくお願いたします。

この「T-time」に所感を述べるのは学園長として昨年同時期以来になりますが、その間何とか健康を維持し、学園のあるべき姿の「選ばれ続ける総合学園」を目指して努力してきたつもりですが、なかなか厳しい環境を克服するまでには至っていません。こんな中での、理事長と学園長兼務はかなりのプレッシャーですが、越えなければならぬ山なら越えたと自分を鼓舞しています。

ご承知のように、少子化、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻の我が国経済、国民生活への影響が、時間とともに顕在化し、学園経営においても、各ご家庭の私学選好、選択の自由度を阻んでいます。もちろん、我が学園も例外ではなく厳しさは増してきています。

こんな状況下では具体的に明確な方向、指針が何より必要です。またその方向、指針に沿ってスピード感を持って当たらなければならぬと考えています。そのため、昨年2月に『帝塚山学園経営安定化計画（大学編）』を理事会、評議員会で承認可決していただき、現在この計画の具体化を進行させながら、先月には同じく『帝塚山学園経営安定化計画（中高編）』を承認可決いただいたところです。新年度である令和5年度は大学編、中高編の具体化を進めながら『小幼編』を完成したいと、現在、鋭意努力しています。令和6年度からは3編すべての実行実現と、状況の変化に敏感に反応しながら、3編の

## これからも 「選ばれ続ける帝塚山学園」 であるために

学校法人 帝塚山学園 理事長・学園長 富岡 将人



# Contents *T-time* Vol.14

## 巻頭言 ..... P 01

「これからも「選ばれ続ける帝塚山学園」であるために」  
(帝塚山学園理事長・学園長 富岡 将人)

## 活躍する卒業生 T-voice ..... P 03

帝塚山中学校・高等学校第51期生 尾田 安信 さん

## 大 学 ..... P 05

教育学部1期生 スチューデント・コンサート、パネルシアターを開催しました

### TOPICS

第58回虹色祭

卒業研究発表会

現代生活学部 UR都市機構と地域交流イベント

食物栄養学科 産学連携で開発したバレンタインスイーツ販売

居住空間デザイン学科 卒業研究展・卒業研究発表会

## 中学校・高等学校 ..... P 07

2022年度「田んぼプロジェクト」 稲刈り・脱穀・実食を行いました

### TOPICS

女性研究者によるキャリア教育講演会

金融教育

弦楽部 全国高校選抜オーケストラフェスタでコンサートマスターに選出

大学入学共通テスト壮行会

英語部 奈良県英語スピーチ&レシテーションコンテストで優勝

英検合格者

## 小学校 ..... P 09

オーケストラ探検コンサート・音楽祭を開催しました

### TOPICS

運動会

コーラス部 JWマリオット・ホテル奈良で合唱披露

学習発表会

英語自己表現力コンクールで最優秀賞受賞

## 幼稚園 ..... P 11

運動会・制作展を開催しました

### TOPICS

秋の遠足

万ーパスにとり残された時に備えて

2歳児いもほり

たくさんの行事がありました

## 学園前アートフェスタ2022 ..... P 13

・教育連携 ..... P 15

・同窓会だより ..... P 17

具体化計画である『帝塚山学園第5次中期計画』に迅速な修正を加えながら、中期計画の年度事業計画に反映させて、令和9年度の完遂を目指したいと考えています。

そして、第5次中期計画にうたう帝塚山学園のあるべき姿「帝塚山教育を通じて、変化する時代に選ばれ続ける総合学園」の確立を越えねばならない山として、越えることが自分の使命だと考えています。

こんな形、考えで一生涯懸命頑張りますので、どうか皆様の絶大なご支援、ご協力をお願いするところであります。





尾田組本社にて [撮影: 大島颯斗 (帝塚山大学文学部日本文化学科2年)]

活躍する卒業生

# T-voice

帝塚山中学校・高等学校  
第51期生

## 帝塚山中学校・高等学校 第51期生 平成9年3月卒業 株式会社尾田組 代表取締役社長 尾田 安信さん

12月21日、春日大社の摂社である若宮神社の祭礼「春日若宮おん祭」の神事のひとつ「お旅所祭」で設けられた「お仮殿」の解体作業が行われ、帝塚山大学文学部・大学院人文科学研究科の学生たちがその様子を熱心に撮影していました。こうした祭事に伴う設営や解体など一連の作業を担当しているのは株式会社尾田組の方々。学生が撮影した数々の写真は同社のInstagramに投稿されています。同社の代表取締役社長である尾田安信さんは帝塚山中学校・高等学校の卒業生とのことで、今回、本コーナーでのご紹介が実現しました。同社と学園との産学連携、同社の歴史や使命、ご自身と学園とのかかわり等について、お話を伺いました。

帝塚山大学の学生が作業現場で熱心に写真を撮影している姿を見ました。先日は鼙太鼓の写真を撮っていたようです。御社では、帝塚山大学と連携して、祭事や神事の設営風景等をとらえた写真をInstagramに投稿する取組を始められています。

この取組は、帝塚山大学で民俗学を研究されている高田照世文学部教授と産学連携で何かできないかと始めたものです。撮影された写真にも大変満足しています。会社側の人間が撮影すると所定の規格で仕上がっているか等、どう

しても建設の裏方としての視点が表に出てしまいがちです。我々の仕事を全く異なる角度からとらえ、アピールする手法は若い世代ならではのものと思っています。神事は、過去から繋がってきたことを、今、大切に、さらに未来につなげていかなければいけません。表面的なものだけではなく、設営を含めたプロセス全体を若い皆さんに知ってもらうことは、非常にありがたいことだと思います。

御社のホームページを拝見しますと天保元(1830)年の創業とあり、大変歴史のある会社のように感じます。

江戸末期に創業した社歴の長い会社です。現在は、社寺建築、祭事、一般建築、土木の4つの工部門を持つ総合建設会社となっています。東大寺や春日大社の宮大工として創業した経緯から、祭事に関する場を設ける機会を頂戴しています。今回の春日若宮おん祭のほか、仲秋の名月の日に行われる采女祭、「お水取り」としても親しまれている東大寺の修二会、興福寺の新御能なども手掛けています。



お仮殿の解体作業の様子を撮影する帝塚山大学文学部の学生



2つの木材を繋ぎ合わせる日本の伝統的建築工法「金輪継ぎ手」について説明する尾田社長(撮影:大島颯斗)

先輩が作った多くの建造物等に囲まれて生活しています。地域に貢献する仕事に関わってきた先達に恥ずかしくないようバトンを繋いでいきたいと思えます。また、奈良にしかない建造物や風景を守り残していくためには、今までのように修繕するだ

員を務め、夜遅くまで学園祭では実行委



株式会社尾田組 Instagram  
帝塚山大学の学生が撮影した祭事にかかわる写真が投稿されています  
<https://www.instagram.com/odagumi1830/>

例えば、今回のおん祭り。神様の仮の居所となるお仮殿は樹皮がついたままの赤松を使い、祭りが終わると一日で取り壊します。こうした祭事や神事といった伝統行事は継続することに意味があると思っています。作業の中心を担うのは祭事部門の社員になりますが、他の一般建築部門や土木部門の社員にも催しの現場に触れてもらい、祭事が有する独特の緊張感や心のはりといったものを経験してもらえよう心掛けています。例えば、飛鳥時代から伝わるとされる槍鉋等の工具や古来の建築技法などは口頭から接していないときなり現場で活用することはできません

歴史を持っている会社だけに、我々の先輩が作った多くの建造物等に囲まれて生活しています。地域に貢献する仕事に関わってきた先達に恥ずかしくないようバトン

姿勢が重要であると考へます。若いうちからコツコツと継続して学ぶ

に積極的に体験・挑戦してください。

令和3(2021)年には9代目社長に  
ご就任されました。

では、入社後数年は、先輩などを通じて建築の基本を一から知る必要があります。現場で個性や能力を発揮するには、

将来ずっと生きていくための土台を築く、そういう時期なので、あらゆること

幼少の頃から、祖父母含め、周囲から受けた教育の影響は大きいです。宮大工として始まった当社ですが、時代を経るにつれ、土木部門も担うようになったこともあり、高校卒業後は日本大学理工学部土木工学科に進学しました。奈良・大和盆地という非常に歴史のある地域の土台を支える事業に携わっていることは、誇りに思えることです。

でも期待したいです。継続する力に関しては、入社後数年は、先輩などを通じて建築の基本を一から知る必要があります。現場で個性や能力を発揮するには、若いうちからコツコツと継続して学ぶ

最後に、在校生へのメッセージをお願いします。

学生時代というのは人生の中でも一番自分の時間があり、なおかつ将来はそれを活かす可能性がある時期です。将来ずっと生きていくための土台を築く、そういう時期なので、あらゆることに積極的に体験・挑戦してください。

祭事や神事に関する建築、また、古建築の改修等を担っておられるのは、かなり独特な印象です。同時に、注意を払う場面も多くあるようにお見受けします。

ん。下支えである自分達の失敗で途絶えることがないよう、全社をあげて取り組んでいます。

けではなく、劣化を未然に防ぐ取組にも力を入れる必要があると感じています。自社にはこのような特殊な背景があることから、奈良の歴史や文化、伝統を愛し、十分な理解をもつ人材が適しています。また、必ず持ち合わせておくべき素養として、倫理観があげられま

仲間と取り組んだ思い出があります。また、陸上部に所属していたので体育祭ではリレーの選手に選ばれた記憶もあります。帝塚山学園での学生時代を通じて多くを培うことができましたが、何よりも妻と出会ったことが、今の自分を作るうえで非常に大きいと思います。



中学3年生のころの尾田社長(ご本人提供)



# 教育学部1期生が日ごろの成果を発揮 地域・産業界と連携してのチューデント・コンサート、パネルシアターを開催

1月13日・21日

1 月13日、教育学部こども教育学科の学生による「チューデント・コンサート」が学園前ホール(奈良市)で開催されました。

このコンサートは、技能の優秀だけでなく、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士をめざす友人と共励切磋し、音楽への愛を育み、将来の保育・教職現場での音楽の活用に対する工夫や展開力を育成すること等をねらいとして行うもので、今回で8回目の開催となりました。

約40名の学生が出演したコンサートは、音楽の独唱やピアノ独奏・連弾、サクソフやフルート、ヴァイオリンの独奏・二重奏、そしてミュージックベルなど多彩なプログラムで構成され、曲目もクラシックや子ども向けの歌をはじめ、昭和現代のヒット曲などバラエティに富んだものでした。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、3年ぶりの通常開催となった今回、保護者の方々、地域の皆様の来場も見られ、学生たちは日ごろの学びの成果を堂々と発揮していました。



今回、今春から小学校教諭、幼稚園教諭、保育士となる4年生8名が「お餅」をテーマにしたパネルシアターに取り組みました。パネルシアターは、演者が聴衆から見えるために互いの交流を可能とする日本生まれの人形劇で、教育現場で広く実践されているものです。この日に備え、練習を重ねてきた学生たちは、観客に思いが届くようにと、当日も時間ギリギリまで細かい動きを一つひとつチェックしていました。

ステージ前は開演を今か今かと待つ親子連れでぎっしり。いよいよ幕が開くとお揃いの青いTシャツを着た学生がマスク越しでも分かる笑顔で登場しました。シアターでは、正月に食べているお餅がどのような工程を経てできあがるのかを手遊びやダンス、クイズも交え、分かりやすく表現。臼や杵、稲など手のこんだ小道具が次々に出てくると子どもたちは食い入るようにパネルを見つめていました。また、後半のプログラムでは、病気になるまいよう、うがいや手洗いの励行を促す「ねこのおしやさん」のお話でテンポよく披露され、子どもたちは一緒に体を揺らしながら歌っていました。日ごろから地域の子育て支援プロジェクトに参加し、地域貢献を通じて教育者として必要な力を身につけている教育学部の学生。今回のイベントでも子育て支援を通じての地域活性化に取り組みことができました。

また、1月21日には、「天然大和温泉 奈良健康ランド 奈良プラザホテル」横の屋内型巨大エア遊具テーマパーク「奈良わんぱくランド はしゃぎっず」(天理市)で同学部の学生による親子向けワークショップイベントが開催されました。本イベントは産学連携により実現したもので、大学生がこの地でイベントに出演するのは初めて。

両イベントでは、平成31年4月に開設された教育学部の1期生が大いに活躍。4年生となった1期生は教員採用試験や公務員試験(幼保)、卒業研究など就職や学業で慌ただしい1年となりましたが、これまでの学びで身につけた教育者として必要な能力・資質を存分に発揮していました。

## 第58回大学祭「虹色祭」を開催しました

(11月19日・20日)

第58回大学祭「虹色祭」が東生駒キャンパスで2日間にわたって開催されました。中庭に設けられたメインステージは実行委員会による各種企画やお笑い芸人による漫才の舞台、さらに各クラブによるダンスや演奏の披露の場となるなど、キャンパス全体が来場した学生達で大いに盛り上がりました。展示会場には、文化クラブを中心に茶席や射的、フラワーアレンジメントが催された他、各学科で工夫を凝らして制作された作品も展示され、多くの学生がそれぞれを楽しんだり、熱心に見たりしていました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入構できるのは在学生と教職員のみに限られましたが、3年ぶりに模擬店が復活。ゼミやクラブ、学生有志団体による焼きそばや肉まん、小籠包、芋のチップ、おでん等さまざまな屋台が軒を連ね、キャンパスには大学祭らしい活気が戻っていました。

虹色祭を締めくくるとは祭り恒例の打ち上げ花火。会場には、事前予約により来場された卒業生や近隣の方々、親子連れの姿も多くありました。来場者は、次々と打ち上げられる色とりどりの花火を見上げたり、喜びの声を上げながら写真を撮影したりと思思いに秋の終わりを満喫していました。また、毎冬、大学では構内を彩るイルミネーションが灯されていますが、今回は、虹色祭に合わせて特別に点灯されて、虹色祭をより美しく演出していました。



## 4年間の学びの集大成を披露 ～「卒業研究発表会」等を開催～

多くの学生たちが4年間の学びの集大成ともいえる「卒業研究」に取り組み、発表会や成果のとりまとめに奮闘しました。

このうち心理学部では、領域ごとにゼミ合同の卒業論文発表会が開催されました。研究成果をパネルに掲出し、学生自身が来訪者に説明を行うポスター発表や、プレゼンテーションソフトを用いて聴衆の面前で論を展開、それを受けての質問に適宜回答する口頭発表などさまざまなスタイルで行われました(写真)。また、法学部では、4年生全員に「卒業研究レポート」の提出が課されています。原則、3年生の演習科目を担当した教員が4年生でも継続して卒業研究の指導を行い、卒業研究レポートの合格をめざします。採点は評価項目ごとに到達度を明文化するとともに主査および副査2名の審査体制をとるなど厳格に行われています。

管理栄養士をめざす現代生活学部食物栄養学科では、11月下旬に卒業研究発表会が行われました。卒業研究では、各自が設定した研究課題にゼミ活動を通じて取り組み、この日登壇した学生はスクリーンに投影した資料を指し示しながら緊張した面持ちで発表していました。来年、卒業研究に取り組むこととなる3年生の聴講もあり、実験や調査、地域・企業と連携した活動や商品開発など多岐にわたる先輩の発表に大いに刺激を受けていました。同学部居住空間デザイン学科では、卒業論文や卒業設計、卒業制作に取り組んだ学生の卒業研究発表会や卒業研究展が開催されました(別記事参照)。文学部では、11月に卒業研究中間発表会をコースごとに実施。発表やその後の教員によるコメントを通じて、参照した資料の適切性や理解度など自身の研究の方向性や進捗を把握するとともに、質や内容だけでなく相当な分量(1,200字以上)が求められる卒業論文の完成に向けて、気持ちを奮い立たせていました。

多くの学生が取り組む卒業研究では、各自が設定した研究課題と向き合うための専門的知識をはじめ、情報収集力や分析力、まとめたものを発信し伝える力など、まさに各学科において社会で活躍するために身につけるべきと定義している能力や資質を総合的に養うことができます。

## 居住空間デザイン学科 卒業研究展・卒業研究発表会を実施

(2月10～12日)

2月10日～12日、学園前キャンパスで現代生活学部居住空間デザイン学科第16回卒業研究展が開催されました。自らの作品を仕上げる傍ら、作品の搬入から会場設営、開催当日の受付等の運営、終了後の撤収に至るまでを学生自らの手で行う同学科の冬の一大イベント。4年間にわたって学び、日々研鑽してきた成果が凝縮された数々の力作が展示され、学外を含む多くの来場者の注目を集めていました。また、研究展に先立ち、卒業論文や卒業設計、卒業制作に取り組んだ学生たちによる卒業研究発表会が行われました。長らく取り組んできた研究の成果を懸命に説明する学生に対し、指導教員や聴講した学生から鋭い質問が寄せられるなど(写真右上)白熱した発表会となりました。



研究成果を富岡理事長(右)に説明する学生

## 現代生活学部、UR都市機構との 地域交流イベントを実施

(2月18日)

大学とUR都市機構西日本支社とで締結している連携協定にもとづき、地域交流イベント「コミュニティフェスタ」が奈良学園前・鶴舞団地(奈良市鶴舞西町)で開催されました。

現代生活学部居住空間デザイン学科は卒業研究展示会のほか同学科学生考案の認知症予防やジェンダー問題を題材としたボードゲーム大会を、同学部食物栄養学科はつかめた個数を競う「まめつかみ」競争(写真右上)を運営し、多くの来場者に対応していました。木の棒を投げて12本のピンを倒して点数を競うゲーム「モルック」も年齢を問わず楽しめるスポーツであり、人気を集めていました。準備や運営に学生が積極的に関与し、協定の目的である高齢者など多様な世代に対応するまちづくりや健康づくり、また地域コミュニティの活性化に寄与することができました。



卒業研究として制作された建築設計の説明を聞く来場者

## 食物栄養学科学生が産学連携で 開発した「はとむぎ粉」使用の バレンタインスイーツを販売

(2月8～14日)

現代生活学部食物栄養学科岩橋明子准教授の指導のもと、同学科の学生が、近鉄百貨店奈良店及びはとむぎ製品を中心に製造・販売する「それいゆはとむぎ」(太陽食品株式会社・奈良市)とはとむぎ粉を使用したオリジナル商品を開発。2月8日～14日、同店で販売され、学生も店頭へ立ち、商品を存分にアピールしました。開発した商品は、はとむぎを主体に動物性原料は一切使用しないからだに優しいヴィーガンスイーツ。学生は管理栄養士をめざす県内の大学生で構成される食育ボランティアサークル「ヘルスチーム菜良」のメンバーで、これまで弁当開発や食育イベント等の企画・実施で培った豊富な経験を生かしました。店頭には、ピターマフィンや木の実のパウンドケーキ、抹茶のマドレーヌなど5種類のスイーツが用意され、販売初日からバレンタイン用にと商品を求める多くのお客様が来てくださいました。



商品開発に取り組んだ食物栄養学科の学生たち



## 2022年度「田んぼプロジェクト」 稲刈り・脱穀・実食を行いました

11月6日・23日

11月6日、奈良県明日香村にある国営飛鳥歴史公園内のキトラ古墳周辺地区「キトラの田んぼ」で「田んぼプロジェクト」に参加した生徒による稲刈りが行われました。

このプロジェクトは、日本の原風景ともいえる飛鳥の地で、農家の方々との共同による稲作体験を通じ、生徒たちが「農の観点から、伝統や文化、産業、社会を幅広く学び、理解することを目的とするもので活動は3年目を迎えています。

この日、刈るのはみごとに生長した古代米「神丹穂」の稲。本プロジェクトでお世話になっている樽井一樹さんと瀬川健さんが鎌の取扱いや刈った稲を藁で結わえる方法を丁寧に教えてくださいました。生徒たちはまだぬかるみの残る田んぼで泥だらけになりながら倒れた稲の根元を探し刈り取っていました。束ねた稲を組んだ棒に架けて天日と自然風で乾燥させる稲架掛けなど古来の農業の手法も体験しました。

プロジェクトの最終回となった11月23日には、乾燥させた稲穂から籾を抜き落とす脱穀を体験しました。見るのも使うのも初めての足踏み式の脱穀機のため、機械を回転させるタイミングをつかむのに苦労しているようでした。別のグループは籾に座って、殻などを取り除く箕を使うなど昔ながらの農作業を体験。当時の農具に触れ、先人の苦勞と知恵に関心していました。

一連の作業の段取りがつけば、おまちかねの実食です。あたりにはお

米の匂いが立ち込めており、釜の蓋を開けるとふっくらと神丹穂が炊きあがっていました。樽井さんからふるまわれたあやめ雪力フなどの新鮮な野菜、また、このプロジェクトで学んでいる獣害対策にちなんで提供されたジビエ(イノシシや鹿)に生徒たちは舌鼓を打っていました。

午後からは、9月に催された「古代稲を愛でる会」でポスター展示・発表した害虫や益虫、稲作の歴史、食文化、米の生産事情など幅広い研究テーマについて振り返りました。

一連のプロジェクト活動を終え、「いろいろな苦手を克服できた」「飛鳥の景色が大好き」「生き物に詳しくなった」「農家の方が生産物にかける情熱を間近で見ることができた」など生徒一人ひとりが感想を述べました。

プロジェクトを監督する数検教諭からは「今年は班ごとに取り組む課題も多く、リーダーがよくまとめてくれた。明日香村は魅力ある地なのでプロジェクトが終わってもぜひこの地を訪れてほしい」と語っています。瀬川さん、樽井さんからは、「活動を通して、皆には考ええる力、「コミュニケーション力、表現力さまざまな力が身についた。これからも頑張ってください」とエールが贈られました。

学年・性別を越えての今回のプロジェクトは生徒たちに大きな刺激成長をもたらしました。実施にあたり、樽井さん、瀬川さん、国営飛鳥歴史公園のみなさま、そして明日香村のみなさまに多大なご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

## 「金融教育」を行いました (11月10日・12日)

高校の学習指導要領・家庭科について、株式や債券、投資信託といった金融商品の特性や資産形成の視点に触れるようにすること等、内容が改まったことを受け、学校現場での「金融教育」の重要性が高まっています。今回、高校1年のクラスに野村ホールディングス株式会社ファイナンシャル・ウェルビーイング室兼サステナビリティ推進室ヴァイス・プレジデントの酒井賢一氏、同シニアアソシアートの佐藤由紀氏をお迎えし、資産形成について学ぶ特別授業を行いました。

お二人からは、成人年齢の引下げやキャッシュレス化に伴う金融リテラシーの重要性、さらに教育や住宅、老後といった人生設計の大切さをふまえ、さまざまな金融商品の特性、メリット、デメリットについて解説がありました。日々、経済動向や為替相場、物価高などのニュースを注視しておくだけでなく、ローリスク・ハイリターンといった甘い話はないこと、投資は社会人として社会の発展を意識して行う面もあるといった話題もあり、「消費者教育」としても位置づけられる内容でした。

生徒からは、金融商品をどのように選択すればよいか、AIが選ぶ商品を信用してよいか、さらに証券会社の仕事の内容に関する質問が出ました。受講後、「投資は難しいと思ったが多くの種類・方法があると知り、やってみたいと思った」「金融に興味があったがさらに関心が深まった」と満足した様子を見せていました。



野村ホールディングス株式会社ファイナンシャル・ウェルビーイング室兼サステナビリティ推進室ヴァイス・プレジデント酒井賢一氏



野村ホールディングス株式会社ファイナンシャル・ウェルビーイング室兼サステナビリティ推進室シニアアソシエイト佐藤由紀氏

## 大学入学共通テスト壮行会を行いました (1月12日)

大学入学共通テストを間近に控えた1月12日、学園講堂に高校3年生が集まり、壮行会が行われました。仲島浩紀進路指導部長と高校3年担任団から激励のメッセージが伝えられ、真剣な表情で臨んでいた生徒たちは、テスト本番に向け、一層気を引き締めていました。



## 中学英語部の井上知優さん 第4回「奈良県英語スピーチ&レシテーションコンテスト」で優勝 (9月13日)

中学英語部の井上知優さん(3年3組)が第4回「奈良県英語スピーチ&レシテーションコンテスト」で見事優勝しました。スピーチのテーマは「For My Beloved Fish」。井上さんは「原稿が固まったのは期限の3日前。練習があまりできなかったので優勝と聞いて驚いた」と語っていました。日ごろ、授業や部活以外に、海外のニュースを見て英語に接している井上さん。「今後は全国大会に出場して優勝したい。まずは英検やTOEIC等の資格取得を目指したい」とさらなる意欲を見せていました。



### 2022年度第2回 実用英語検定試験合格者

準1級：池田光希(2-A) 河原花奈・前川葉奈(2-I)  
2級：西原悠花(1-5) 長沢佳奈(1-8) 加瀬瑞生(2-7)  
桑村莉歩(2-9) 辻林和(2-10) 中川雄貴(3-3) 山下桃子(3-5)  
田中綾乃・松久美星(3-10)

## 女性研究者によるキャリア教育講演会を実施しました (11月4日)

11月4日、日本ロボット学会との共催で女性キャリア講演会を実施しました。富士通株式会社研究本部先端融合技術研究所の松添静子さんをお迎えし、理工系分野の女性研究者としてどのようにキャリアを積んできたのか、高校2年女子生徒にご講演いただきました。同学会理事・大阪工業大学上田悦子教授にもご参加いただきました。松添さんは、小学校の時に見た「高専ロボコン大会」に関心を抱き、高専に進学。大学では感性工学を専攻し、人や社会により役立つものを作りたいとの思いを強くし、大学院博士課程では幼児教育とコミュニケーション・ロボットの関係について研究を深化させたそうです。就職後は結婚、出産といったライフイベントに関するさまざまな経験乗り越え、今は、複雑な社会課題を解決することをめざす「ソーシャルデジタルツイン」に関する研究に取り組んでいます。松添さんは「好きなものを追いかけることは大切。何気ないところにテーマはあるので日頃からアンテナをはって」と参加した女子生徒にアドバイスを送っていました。生徒からは、学部選択や大学院入試、研究のやりがい、女性としてのメリット・デメリット等について、質問があがりました。講演後、松添さんのもとに駆け寄り、「クラブの練習が多く、勉強の時間がとりにくい」と自学自習の悩みを聞いてもらった生徒もいました(写真下)。



松添さんは「好きなものを追いかけることは大切。何気ないところにテーマはあるので日頃からアンテナをはって」と参加した女子生徒にアドバイスを送っていました。生徒からは、学部選択や大学院入試、研究のやりがい、女性としてのメリット・デメリット等について、質問があがりました。講演後、松添さんのもとに駆け寄り、「クラブの練習が多く、勉強の時間がとりにくい」と自学自習の悩みを聞いてもらった生徒もいました(写真下)。



中高では、今回の女性研究者以外にも公認会計士、弁護士、医師、起業家などさまざまな分野で活躍される方々をお招きし、キャリア設計に役立てられる講演会を開催しています。

## 弦楽部濱口結有さん 全国高校選抜オーケストラフェスタで見事コンサートマスターに選出 (12月28日)

「第29回全国高等学校選抜オーケストラフェスタ」(主催：全日本高等学校オーケストラ連盟/会場：日本青年館)において、全国各地の高校生からの選抜メンバーで編成される「選抜オーケストラ」のコンサートマスターに、オーディションの結果、弦楽部の濱口結有さん(2年J組)が見事選出されました。同フェスタは管弦楽や弦楽合奏のクラブが全国から集う日本最大の高校オーケストラの祭典。「コンマスは“オーケストラの要”“指揮者の鏡”とも言われる重要な役割。合奏練習は本番前日と当日のみという中、慣れない指揮者のもとで、普段の音楽環境が違うメンバーをまとめることは大変でしたが、その分、学ぶことも多く、得たものは大きかった」と大舞台を終えた心境を語っていた濱口さんは、学業にもいそむむかたわら、約80名もの部員を引っ張る弦楽部の部長も務めています。「聴いてくださる方の心に届くような演奏をしたい」と4月30日に大阪・いづみホールで開かれる引退公演に向けて休む間もなく練習と勉強の両立に励んでいます。





12月14~16日  
11月25日

# 芸術の秋。思う存分、音楽に浸り、音楽を楽しみました ～「オーケストラ探検コンサート」・音楽祭を開催～

「そ」れでは登場です！。紹介のアナウンスに合わせ、学園講堂のフロアに、児童が今か今かと待ちわびていたオーボエ、ヴァイオリン、トロンボーン、ピアノ、フルートの奏者が次々と現れました。この日は、子供たちの豊かな創造力・想像力や思考力、コミュニケーション能力等を養うとともに、将来の芸術家や観客層の育成、優れた文化芸術の創造を目的とした文化庁の「芸術家派遣事業」の一環として、「サロンオーケストラジャパンアンフィニスタジオ」からプロの演奏家が来てくださいました。



早速、演奏が始まると、子どもたちは耳を澄ませてその音色に聞き入っていました。曲によっては、ウッドブロックやサイレンホイッスルなど普段接することの少ない楽器も登場。グイズ形式による楽器の特徴の紹介のほか、児童がステージに上がり、至近距離で演奏を聴くなど、音楽を楽しむためのさまざまな工夫が凝らされていました。また、指揮者体験のコーナーでは、代表の児童が指揮者に扮し、奏者相手にタクトを振っていました（写真下）。演奏終了後、講堂内には、楽器体験のコーナーが設けられ、児童は足で操作する電子楽器などに挑戦していました。

新型コロナウイルス感染拡大を受け、本物の演奏に触れる機会が少なくなった中、小学校が企画・申請した「オーケストラ探検コンサート」の開催により、迫力ある生の演奏を児童が鑑賞・体験できる貴重な機会を得ました。

11月25日には、奈良県文化会館国際ホールで第50回記念となる音楽祭が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、通常の形態での開催は実に3年ぶりとなります。司会進行をコーラス部が担うなど、児童自らの手でつくりあげた催しになりました。音楽祭は、コーラス部の合唱、吹奏楽部の演奏で幕開け。続けて、クラスごとに練習した成果が披露され、ホール内には伸びやかな歌声が響き渡りました。担任の先生は、子ども達の一生懸命な姿をしっかりと見守っていました。後半は和太鼓クラブの力強い演奏で再開しました。プログラムの最後にはサプライズとして、先生方が壇上に集結。連日こっそりと練習を重ねた耳なじみのある曲目が演奏されると子どもたちは大興奮の様子でした。



## コーラス部 JWマリオット・ホテル奈良のクリスマスイベントで合唱を披露 (11月11日)

11月11日、小学校コーラス部が JWマリオット・ホテル奈良(奈良市)で合唱を披露しました。この公演は、同ホテルで行われるクリスマスツリー点灯式のひとつのプログラムとして、児童から歌声を届けてもらえないかとの申し出を受け、実現に至ったものです。



点灯のカウントダウンなどプログラムは順調に進み、いよいよコーラス部の出番です。司会の呼びかけに応じて、トナカイの被り物を身につけた子どもたちは色とりどりの装飾が施されたりばなツリーの前に登場。披露する曲目や部の活動内容など、一人ひとり心をこめてお客様にお伝えしました。顧問の田中葉子先生の伴奏に合わせて、クリスマスソングを声高らかに歌い始めると、来館者は身体でリズムを感じながら、心地よく聞き入っていました。あわせて2曲を伸びやかに歌い上げると、ロビーを埋め尽くした聴衆からは温かい拍手がわき起こりました。点灯式の終盤には、サンタクロースも登場(写真右上)。児童たちはようやく緊張の糸もほぐれ、大喜びの様子を見せていました。

ホテルが行うクリスマスイベント。今年のテーマは「ラブ・オブ・クリスマス」のことで、メロディに乗った子どもたちの思いが多くの人々を温かな気持ちにしていました。



大きなクリスマスツリーの前で歌うコーラス部員(写真提供:フォトサロンKEI)

## 森本有珠さんが英語自己表現力コンクールで最優秀賞を受賞 (11月18日)

3年月組の森本有珠さんが英語自己表現力コンクール(現代用語検定協会主催)で最優秀賞を受賞しました。

夏休みの自由研究として、英語に関係するものを題材に選び、同コンクールに初めて応募した森本さん。「最優秀賞に選ばれ、信じられなかった」と話していました。作品のテーマは「Animal Clinic Interview」。獣医になりたいとの将来の夢を抱いている森本さんは動物病院にたくさんのインタビューを重ねたそうです。「作品にまとめるのが大変だったが、写真など工夫をしているので見てもらいたい」と賞状を手話していました。普段は、英語のテレビを見たり、英語の本を読むように心がけている森本さんは「新たな賞にも挑戦したい」とさらなる意欲を高めていました。



## 練習の成果を発揮しました～運動会を開催～

(10月9日)



一等賞になれたよ

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来に近い形での開催は実に3年ぶりとなった運動会。いつもの運動場よりさらに広い中高のグラウンドを会場に児童たちは元気に躍動する姿を見せました。

開会式では、吹奏楽部の力強い演奏にあわせて、赤、白、黄、青の4チームが元気に入場。これに続き、低学年の競技が行われました。集団演技ではこれまで重ねてきた練習の成果が見事に発揮され、終演後、保護者の拍手は鳴りやみませんでした。

運動会の目玉となる種目である応援合戦は小学校創立70周年を祝うパフォーマンスなど(写真右下)、各チームが勝利への意気込みをアピールしました。今回初めて、観戦する保護者のリアルタイム投票による審査が取り入れられ、温かいメッセージもその場で読み上げられました。

いちばん白熱したのは4色対抗リレー。学年の代表として選ばれた児童がバトンを受け継いでいきます。抜きつ抜かれつの攻防に各チームの応援は激しさを増しました。

保護者の来場の時間帯を学年によって入れ替えるなど、感染拡大防止対策がとられた運動会。不安定な天候でしたが、児童の思いが通じたのか、予定どおりすべての競技を終えることができました。



息の合った高学年の集団演技

## 1年間の集大成を上演～学習発表会を開催～ (2月8日)

2月8日、小学校体育館で学習発表会が行われました。クラスごとにオリジナルの台本による劇が演じられ、1年間の学びの集大成の場となりました。上演に向け、児童たちは、自分の役の台詞を覚えるだけでなく、声の大きさや間、身振り手振りなど友達と相談しながら劇を作り上げていました。また、舞台を演出する背景の絵や大道具など役割分担をしながら制作作業にあたっていました。一連の取組を通じ、児童たちは表現力や創造力、チームワークなどさまざまな力を身につけ、舞台上でも見事に発揮されていました。終演後、大きな拍手が起こると、緊張していた児童たちもほっと安堵の表情を見せていました。





いっしょうけんめい と く せいか ひろく  
一生懸命取り組んだ成果を披露  
うんどうかい せいさくてん かいさい  
～運動会・制作展を開催しました～

**夏**を思わせる暑さになったこの日、子どもたちも先生も楽しみにしていた運動会が行われました。

会場はふだん駆け回っている園庭ではなく、小学校の広い運動場。園児が入場すると観覧席を埋め尽くす保護者からは大きな拍手が起きました。各競技では、一等賞をめざしてゴールテープめがけて走ったり、ベンチの下をくぐったり、跳び箱を越えたりと園児たちは力の限りを尽くしていました。また、各学年の身体表現では、先生の朗読や演奏に合わせてのびのびとした動きを見せていました。特に、年長組は組体操を披露。一人、二人、三人と組む人数が増えるにつれ、技の難易度も見映えも格段に上がっていきま

12月に園内で行われた制作展でも、園児たちが一生懸命に作り上げた数多くの作品が所狭しと展示されていました。

年少組は「モリのおくりもの」「きのこのケーキ」のお話にあわせて「木の実のケーキ」を作りました。紙粘土や綿を上手にアレンジして作られた今にも食べられそうな色とりどりのケーキがテーブルの上に並べられています。年中組は日々練習している縄跳びの様子を紙版画で表現。また、「こりすといがぐり」のお話にあわせて、りすの木登りや枝とびの様子、森の木、どんぐりなどの壁面制作に取り組みました。さらに、台座のくぎ打ちなど初挑戦の木工作に悪戦苦闘しながら完成させた素敵な秋の木が展示されていました。年長組は、長編物語「パンビ物語」のパンビの森をテーマに、季節ごとの森の様子を共同木工制作で再現。4つのグループでの共同作業を通じてチームワークを養うことができました。また、遠足で見た穏やかな大仏様の表情を一人ひとり敏感に察知し、絵に現していました。2歳児クラスでは秋の葉っぱとどんぐり、クリスマスをテーマとした表現力豊かな作品が展示されていました。当日、家族と訪れた子どもたちは、自分の作品を見つけると自慢げな様子で指をさしていました。



## 万一バスにとり残された時に備えて

〈10月19日〉

スクールバスは通園だけでなく、遠足などさまざまな場面で利用しています。幼稚園では、細心の注意を払っていますが、万一、車内でのとり残しが発生した場合に備え、園児一人ひとりが自らクラクションを慣らすことで危険を外部に伝えられるよう訓練を行いました。この日は、園長先生からスクールバスの安全な利用方法についてお話を聞いた後、一人ひとり車内に入り、運転席のクラクションを鳴らし、「助けて!!」と大声を出すなどの実践をしました。スクールバスの運転手さんからは「(クラクションの)真ん中をグッと押して!!」「もっと大きな声を出して!!」などの声かけもあり、子ども達は真剣に取り組んでいました。



先生が園児一人ひとりに指導しました

## 大きな芋を見つけたよ

～2歳児いもほり～ 〈10月20日・21日〉

帝塚山2歳児教育を受けている子どもたちは、この日、園外に出て、学園近郊の畑でさつま芋の収穫を体験しました。土から顔を出した芋をみつけると子どもたちはたちまち笑顔に。一人で引き抜くことができず、お友だちと力を合わせて引っ張っていました。



こんなに大きな芋が出てきたよ

## 秋の味覚を満喫しました

～秋の遠足～ 〈11月2日〉

この日、園児たちは信貴山のどか村(奈良県三郷町)に秋の遠足に出かけました。自然豊かな広大な園内各所にはさまざまな作物が栽培されていて、秋の味覚を満喫できます。さつま芋畑に到着した園児は早速収穫に挑戦していました。芋のつるを手掛かりに丁寧にまわりの土を掘っていくと、大きな芋や変わった形の芋がたくさんとれました。また、みかん園には枝が折れそうなほど色鮮やかな大きなみかんが実っていて、あたりは柑橘系のいい香りが漂っていました。持ち帰りできる数が決まっているので、園児はよりおいしそうなおみかんを一つひとつ慎重に見極めていました。高いところの実っているみかんは先生の助けを得ながら収穫していました。昼のお弁当は広い芝生の上でみんなで輪になって食べました。食後は広い園内を駆け回ってしっぽとりをしたり、にわとりややぎなどの動物を見たりしていました。花壇にはコスモスの花がやさしく揺れていて楽しい秋の一日となりました。



大きな芋が掘れました



お弁当の後は広い芝生でみんなで縄跳び

## たくさんの行事がありました



稲刈り(10月21日)

てづフェス(10月31日)

クリスマス会(12月16日)

もちつき(12月20日)

豆まき(2月2日)



# 「学園前アートフェスタ2022」 が開催されました

学園前地区一帯を舞台とした周遊型イベント「学園前アートフェスタ2022」が11月5日から12日までの8日間にわたり、開催されました。

主催：学園前街育プロジェクト実行委員会

〔構成団体〕奈良市学園南地区自治連合会、学校法人帝塚山学園、公益財団法人大和文華館、公益財団法人中野美術館、公益財団法人奈良市生涯学習財団西部公民館、奈良市西部会館市民ホール（日本環境マネジメント株式会社）、株式会社浅沼組、GALLERY GM-11

開幕初日は帝塚山学園講堂でオープニングセレモニーが行われました。冒頭、実行委員会委員長を務める富岡将人帝塚山学園理事長・学園長は、学園前に立地する帝塚山学園として、地域の方々とともに



アートや文化の一層の充実を図っていききたいとフェスタへの意気込みを強く語っていました。また、来賓として仲川げん奈良市長も来場。開催に至るまでの準備に対する地域の皆様へのねぎらい、さらにフェスタの成功への強い期待が述べられました。このあと、NPO法人芸法の小國陽佑氏より、フェスタの趣旨・目的やテーマ、みどころについて、スライドをまじえての丁寧な説明がありました。セレモニーのしめくくりは帝塚山小学校の児童が登場。まず、コーラス部の児童ののびやかな歌声に続き、吹奏楽部の児童が迫力ある演奏で場内を圧倒しました。最後はコーラス部と吹奏楽部合同による合唱・演奏。会場からは大きな拍手と歓声があがりました。





また、学園前ホールでは、「学園前 ニュージェネレーションズフェスタ」が行われ、帝塚山中高ダンス部が登場。8月に開催された「第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル」で演じ、入選を果たした「我、人と逢うなり」を含む3作品を披露。見事なチームワークによって繰り出される表現力豊かな部員たちの演技に場内からは大きな拍手が起こりました。11月5日・6日の両日行われた「学園前ニュージェネレーションズフェスタ」では、若い世代が合唱、演劇、ダンスなどさまざまなパフォーマンスを披露しました。

さらに、総勢20組の現代アーティストと地域住民、子どもたちの作品が学園前エリア11会場で展示され



期間中、学園前エリア一帯は周遊

しました。のべ1,000人を超える人が会場を訪れ、油絵や水墨画、彫刻、工芸などさまざまなジャンルのアート作品に興味を示していました。プロのアーティストに加え、学園各学校からも作品の出展がありました。中高写真部は、奈良市西部公民館5階で、コンクールで受賞した作品を含め、撮影した写真を展示しました。また、大和キリスト教会では、大学現代生活学部居住空間デザイン学科学生による制作作品が展示されました。また、学園前キャンパス18号館も会場となり、多くの学生、教職員が展示作品に見入っていました。



マップを手にした来訪者が行き交っていました。このマップは大学現代生活学部居住空間デザイン学科学生がデザインしたもので、スタンプラリーの仕様となっています。すべての会場を制覇した参加者は294名に達しました。催しには地域の方々をはじめ、大学の学生もボランティアとして活躍しました。

今回のフェスタのコンセプトは「Canvas as Campus」。街そのものをキャンパス(学園)に見立て、アーティストや地元住民・来訪者と表現を通じた交流を深めるとのねらいどおり、学園前の街一帯が芸術の秋を感じさせた8日間でした。

## 帝塚山学園からのお知らせ

学校法人帝塚山学園が100%出資する子会社「帝塚山ビジネスサポート株式会社」は令和4年11月30日をもって解散しました。これまで同社では学園オリジナルミネラルウォーターや各種オリジナルグッズの販売等を行ってまいりましたが、解散に伴い、取扱いを終了します。長らくのご支援、ご愛顧に厚く御礼申し上げます。



# 「つながる」「ひろがる」教育連携

## プログラミングを習得～ロボット学習教室を開催しました～

11月12日

大学×中高×小学校

この日、ロボット学習教室が行われ、会場となった小学校の理科室に10名の児童が集まりました。本教室を企画・運営する中高八尋博士教諭の監督のもと、小学校教員をめざす大学教育学部の学生たちが講師役を務めました。小学校でプログラミングの授業が導入されたこともあり、学生にとっては実習さながらの2時間となりました。

この日の目標は組み立てたブロックにセンサーなどをつけて反復運動をする「腹筋ロボット」を作ること。子どもたちは5グループに分かれ、手順に沿ってロボットを組み立てました。ロボットがうまく「腹筋運動」をするようにプログラムを設計し、タブレットから遠隔操作したのですが、グループによってはなかなか思うように動きません。講師役の学生が児童に寄り添ってその理由を一生懸命考えていました。試行錯誤しながらもうまく「腹筋運動」ができたグループは



指導役の学生(左)が児童の様子をそっと見守ります

大喜び。早速、腹筋の「回数」を数えるさらに高度なプログラムにも挑戦していました。各グループがロボットの動きを披露した後、子どもたちはモーターを装着して走らせたり、思い思いにデモレーションしたりとオリジナルのロボット作りに勤しんでいました。



学生(左)らの指導を受けながらプログラムを組みむ児童



設計したプログラムどおりにロボットは動くでしょうか



完成した個性豊かなロボット

## ネット・スマホにひそむリスク ～「生活安全教室」を開催～

10月12日

大学×小学校

ネット・スマホは日常生活に欠かせないものとなり、現代では年齢の低いうちから接点をもつ子どもが多くなっています。この日、大学経済経営学部日置慎治教授による「ネット・スマホ安全教室～小学生がついやってしまいがちなこと～」をテーマとした生活安全教室が開催され、小学校体育館には3～6年生の児童が集まりました。

日置教授は、ネットやスマホではたくさんのことが「できる」けれども、「やってよいこと」「やってはいけないこと」の違いを理解することが大切と説きました。通信技術の発達はめざましく、これまで「できなかったこと」が小学生でも簡単に「できて」しまう、つい気軽な気持ちでやってしまったために取り返しのつかない問題が起こってしまった等、課題を分かりやすく説明していました。また、日置教授は「つい会ってしまう」「つい時間を忘れてしまう」「つい思った事を言うってしまう」「ついネットにアップしてしまう」「ついアプリを入れてしまう」の5つの「つい」について被害の実例を具体的に示し、注意を喚起していました。児童だけでなく、先生も熱心にメモをとる様子が見られ、大人も注意を払っておくべき充実した内容でした。



熱心に耳を傾ける児童



小学生を相手に丁寧に話す日置教授

## 小学生の生演奏を 聞きました

11月1日

小学校×幼稚園

育友会主催行事「てづフェス」の一環として、幼稚園の園児が小学校の体育館に赴き、小学校コーラス部の合唱、吹奏楽部の演奏を聴きました。園児のおなじみの曲が披露されると大きな拍手が起こりました。小学生の生の歌声、生の楽器の音色に多くの園児が聞き入っていました。



行儀よく演奏を聴く園児

## プログラミングを通じて「困難を乗り越える」経験を

12月20日

大学×中高

この日、大学で教職課程の科目「教職入門」を受講している学生たちはロボットの操作に四苦八苦していました。ボードの上に置かれたモーター付きのロボットが定まったルートに沿って移動、さらに定位置に停止するようなプログラムを考えなければなりません。最初からうまく動かないのは想定どおりで、組み立てたプログラムのどこに不具合があるのか、学生は2人1組のペアになってひたすら考え、試行錯誤を重ねていきます。学生がめざしている教職の現場でも失敗をおそれずに挑戦することの大切さを子どもたちに理解してもらう必要があり、このプログラミングを通じて「困難を乗り越える」ということを体感していました。科目担当者である大学全学教育開発センター元根朋美准教授や取組に協力している中高の八尋博士教諭も悩んでいる学生にアドバイスを送っていました。学生は「見ているだけではなくやってみることが大事だと分かった」「必死に考えて成功した時は本当に嬉しかった」と授業を振り返っていました。



2人1組になってプログラムを設計



学生からの質問に対応する元根准教授



中高八尋教諭も授業支援にあっています

## 大学教員による専門分野別出張講義を実施

2月22日

大学×中高

中高では、高校2年生を対象に生徒が志望する専門分野への意識を高めるため、さまざまな分野の大学教員や専門家による出張講義を実施しています。帝塚山大学からも4つの専門分野について当該分野の教員が講師となり、学問の魅力や学びの内容を丁寧に説明しました。



住居・建築分野に関しては現代生活学部居住空間デザイン学科竹山広志講師による講義が行われました

## 学園農園でのさつま芋の収穫

10月28日

大学×小学校×幼稚園

この日、学園前キャンパスからほど近い農園は、朝から子どもたちのにぎやかな声に包まれていました。この農園は大学の学生サークル「てづかfarm」の所属学生が現業員のみなさんと協力しながら管理している学園農園。小学校4年生と幼稚園年中組の園児が一生懸命掘っているのは収穫期を迎えたさつま芋です。「お芋が顔を出したよ、あと少し!」スコップを手にした園児を児童が励ます様子も見られ、次々とさつま芋が収穫されると喜びの声が響き渡りました。土の中やまわりの草むらからぞろぞろ出てくる幼虫やばったに夢中になっている子どももたくさんいました。



収穫したさつま芋は学生食堂や幼稚園の給食で毎年恒例の特別メニューとしてふるまわれました。



小学生と幼稚園児が力を合わせて芋を掘り上げます

## 大学生が紙芝居の読み聞かせを行いました

11月10日

大学×小学校

この日、大学教育学部の学生が小学校2年生の教室にやってきました。同学部では、小学校教諭や幼稚園教諭、保育士をめざす学生が教育現場で絵本の読み聞かせを行い、絵本の魅力を伝える活動に積極的に取り組んでいます。この一環として、今回、大学と小学校の連携による取組が実現しました。

「はじめ、はじめ〜」。拍子木の音が教室中に鳴り響くと、子どもたちは紙芝居の絵に夢中に。この日、用意された紙芝居は「きょうりゅうはかせになるため」でした。学生は「物語の主人公が児童と同じ2年生なので今日はこの作品を読むことに決めた」と話していました。

同学部と一般社団法人言の葉協会との産学連携により制作された紙芝居。昨年の5冊に続き、今年も先の作品をはじめ5冊が制作されました。11月17日には、昨年に続いて同協会からの贈呈式が執り行われ、この場でも学生が紙芝居の読み聞かせを行っていました。制作された紙芝居はインターネット書店amazonでも販売されています。



どんな物語が始まるのか食い入るように見つめる児童



一般社団法人言の葉協会からの紙芝居贈呈式でも読み聞かせを披露

同窓会だより  
(中高)令和5年1月9日  
はたちを祝う会を開催しました

この日、同窓会主催による「はたちを祝う会」が催され、75期生259名が懐かしい学び舎に集いました。民法の改正で令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられたことを受け、式の名称も従来の「成人式」から「はたちを祝う会」に変更。会場となった学園講堂に集まった75期生は決意を新たにしていました。

式では、綿谷基同窓会長、富岡将人理事長・学園長、池辺政人中学校長から祝辞が贈られるとともに、75期生を代表して、山本龍昇さん、喜多由結さんが登壇し、誓いの言葉を述べました。帝塚山学園の歌、祝歌「茜雲」の「黙唱」で閉会した後、クラスごとに恩師を囲み、集合写真を撮影しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来行っていた懇親会を中止するとともに、父母や家族の方々の列席も見送ることとなりましたが、校長、副校長、教頭のほか、高校3年時の担任の先生も勢ぞろい。恩師や友人との久々の再会に喜びの声は



おさまりませんでした。



新型コロナウイルスの本格的な感染拡大が見られた令和2年度に高校3年生だった75期生は緊急事態宣言の発令等を受け、さまざまな制約の中、高校生活を送りました。そのため、懐かしい顔ぶれとの再会は喜びもひとしおだったことでしょう。



式典終了後、75期生有志による二次会が開催されました

令和4年12月  
中高図書室へ図書を寄贈しました

このほど、同窓会は、中高図書室へ「読書好きの生徒たちのために」と28冊の図書を寄贈しました。

図書の寄贈は、平成24年度から継続事業として実施しているものであり、今回も、中高の図書館部長の先生、図書司書の方々に利用頻度の高い本や人気シリーズの新刊や話題の本を選んでいただきました。

選んでいただいた図書は、青少年向けの職業案内本シリーズ「弁護士になるには」「外交官になるには」「声優になるには」「社会保険労務士になるには」「日本語教師になるには」等8編、「恋する日本史」「教養の書」「新選国語辞典第10版」などでした。

寄贈した図書は、同図書室の入り口正面に特設コーナーを設けていただき、一時展示してもらっております。

令和4年11月5日  
令和4年度文化行事「赤膚焼絵付け体験」

令和4年度文化行事は、11月5日、赤膚山元窯「古瀬堯三窯」(奈良市赤膚町)で開催、会員24名が参加しました。

赤膚山元窯は大和郡山藩のご用窯として再興され現代にいたっている赤膚の窯元で自然の木々と陶芸の調和を体感するため、明治時代の奈良県有形文化財に指定されている由緒ある建物の2階で絵付けを体験しました。

絵付け体験の前に8代古瀬堯三さん(46期生)の案内で赤膚焼きの作業工程や国の登録有形文化財である大型登り窯・中型登り窯3件を見学しました。

また、秋晴れの好天に恵まれ若草山、東大寺二月堂、大仏殿、奈良市内及び西ノ京を望むことができた裏山の土取場も見学することが出来ました。

絵付け体験では、赤膚焼きの素焼きコップに思い思いの感性で一心に筆を走らせていました。後日、焼き上がったコップを自宅に配送いただくことになり、焼き上がりを楽しみに筆を置き、昼食の弁当に舌鼓を打ちました。



同窓会だより  
(大学)

令和4年9月25日

## 教養学部24期生・経済学部1期生 和やかに卒業30年目の同窓会

9月25日、教養学部24期生と経済学部1期生合同の「卒業30年会」をホテル日航奈良「飛天の間」にて開催しました。西は大分から北は仙台より、恩師6名と卒業生23名が参加されました。

コロナ禍のため、1年遅れでの開催となりましたが、30年もの年を重ねた顔に戸惑いながらも、しばらくすると懐かしい面影に笑いが絶えず昔話に盛り上がりました。幹事代表の福田雅実さんのご挨拶で始まり、お亡くなりになられた恩師の方々と卒業生に黙祷を捧げました。司会の方からは、蓮花一己

先生、相川貴文先生、安藤志志先生、落合史生先生、重本和泰先生、大西智之先生と懐かしい先生方のご紹介。学長の蓮花先生にご挨拶を頂き、続いて安藤先生のご挨拶と乾杯の音頭。美味しいお料理を楽しみながら先生方から近況報告を。もうすでに定年になられた方もいらっしゃいましたが、「100年時代」ということで楽しく充実した生活を過ごされているお話をして下さいました。

「あつという間だったね。」と言う声はどこからともなく聞こえる中、学歌「この丘に立てば」を斉唱。元同窓会会長の高橋直嗣さんより閉会のご挨拶と一本締め。その後、記念写真を撮影し思い出話に名残が尽きませんでしたが、再会を約束して笑顔でお開きとなりました。



令和4年10月16日

## 吹奏楽部OB・OG会



新型コロナウイルス感染拡大もやや落ち着き、4年ぶり6回目の吹奏楽部OB・OG会を10月16日、大阪市内上本町「杯杯天山閣」で開催しました。

今回は、19期生から70期生まで50余名が集まり、遠くは東京からの参加者もありました。

今回は特に創部以来熱心にご指導いただいた元顧問の故細谷清澄先生(令和4年4月10日逝去)を偲ぶ会として企画したもので、熱心にご指導いただいた故細谷清澄先生のご冥福をお祈りするとともに想い出話して会場は大変盛り上がりしました。

また初めての試みとして親睦をより深くするために楽器のパート毎のテーブル着席にして年輩者と若者が一つのテーブルに着き、より一層充実したOB・OG会となりました。

旧交をあたため楽しいひととき、時の経つのを忘れるほどであり、幹事がお開きを強制的に宣言して解散となりました。

おかげさまで皆様のご協力では大成功に終わりました。みなさんどうぞ、また会う日までお変わりなくお元気でと祈る限りです。

(幹事記)

令和4年10月15日

## 令和4年度 第24回同窓会ゴルフ大会開催

令和4年度の第24回ゴルフ大会を京都府木津川市の美加ノ原カンツリークラブで秋晴れの好天に恵まれ開催することができました。

例年に比べ色々リスクのある中、本年度の開催もコロナ禍で心配されましたが、短時間での懇親会の実施等、新型コロナウイルス感染防止対策を行い、実施しました。

大会には同窓会ならではの17期生から69期生までの老若男女の過去最高に近い63名と多くの参加があり、プレーを通じて楽しい時間を過ごし親睦を深めることができました。

今回、団体戦はコロナ禍の影響で残念ながら中止でしたが、個人戦は竹原優さん(42期生)(写真:向かって左側)が平成28年度に続き2度目の優勝を果たしました。綿谷基同窓会長(23期生)(写真:向かって右側)より竹原さんに優勝のトロフィーと賞品の贈呈が、また、他の成績優秀者等にも賞品の贈呈がなされました。

次回は、更なる多くの会員が喜んで参加できるようにと同窓会ゴルフ委員会は、既に来年度の企画をスタートさせており、次回開催を楽しみに多くの会員のご参加をお待ちいたしております。

【成績】個人戦(敬称略)  
優勝 竹原 優(42期生) NET 70.0  
2位 岩田輝彦(27期生) NET 70.4  
3位 細原 要(46期生) NET 71.0





### 「T-time」(第14号) 表紙

帝塚山高等学校写真部の生徒がカメラを手に学園前キャンパス内を探索。  
見たもの、感じたものを生徒ならではの観点で  
思い思いに切り取ってもらいました。

- 大西 裕一朗(2年A組)〈写真F〉
- 中澤 豪(2年A組)〈写真I、L〉
- 大山 遥斗(1年A組)〈写真E、O〉
- 石山 悠太郎(1年B組)〈写真S、U〉
- 森野 良太(1年C組)〈写真K〉
- 高田 結菜(1年E組)〈写真O〉
- 木下 実和(1年G組)〈写真M〉
- 廣島 あかり(1年G組)〈写真A、H〉
- 山中 美音(1年組)〈写真R〉
- 井上 凜子(1年K組)〈写真J、Q〉
- 三田村 萌名(1年K組)〈写真C、G、P〉
- 湯峯 美優羽(1年K組)〈写真N〉
- 槌間 聡(顧問)〈写真B、T〉



「T-time」を  
スマートフォンで！  
スマートフォンなどでも、  
本誌をお楽しみください。